

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	－	－	－
	○	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・前年の競合店出店の反動もあって、来客数が前年を上回っている。ただし、商品の値上げが続いていることで、販売量は前年を下回っている。
	○	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・暑い日が続いたことで、衣替えの時期が遅れたものの、繊維物のコートが前年比120%と大幅に改善している。スーツの需要も回復しつつある。
	○	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・主要量販店を中心に、上期の通信サービス、関連カードサービス、光通信関連の販売が好調であった。ただし、都市部、地方を問わず、競合他社への流出が顕著なことから、更なる対策が求められている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・新政権の誕生によって、消費者が積極財政と減税への期待を持ち始めている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・当区域の有料駐車場及び店舗の駐車場の利用状況を見ると、3か月前と比べて、平日午前中の利用が目に見えて少なくなっている。また、ホテルの駐車場も、10月は満車の日が数回にとどまっており、観光客及びビジネス客が減少していることがうかがえる。物販店も、外から眺める限り、混んでいる日は多くなかった。
	□	商店街（代表者）	販売量の動き	・百貨店を始め、インバウンド消費の落ち込みでマイナスとなっているところが多いものの、当商店街は好調を維持している。ただし、依然として、中国からの観光客は低調であり、国慶節の影響もほとんどみられなかった。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・売上は、2024年比で105.5%、2023年比で152.1%、2022年比で206.5%、2021年比で410.7%、2020年比で329.9%、2019年比で160.5%となっている。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・例年であれば、北海道観光の閑散期に入る頃だが、今年は来客数が増えている。ただし、客単価が若干落ち込んでいる。客の様子をみると、買物の際に価格を確認する客が増えている。非日常の買物であるはずの土産品についても、客が価格に敏感になっており、余計な土産を買わないようにしていることがうかがえる。
	□	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・来客数は相変わらず少ないものの、客単価が上昇していることで助けられている。
	□	百貨店（売場主任）	単価の動き	・気温が低下したことで、秋冬商材に動きが出ている。売上は良くなっているものの、需要を先食いしている面が強いことから、景況感是不変わらない。
	□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・物価高の影響もあって、来客数が前年を若干下回っている。売上は、物価上昇に伴う客単価の上昇もあって、前年並みをキープしている。ただし、インバウンドの来客数が若干減少傾向にあり、この状況が年末まで続くことが懸念される。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・客は、必要な商品は買い控えることなく購入している。一方、割引などのセール品に対する反応も強く、少しでも支出を抑えようとする客の様子がうかがえる。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・売上は、商品単価が上がっていることから、前年をやや上回っている。一方、来客数及び買上点数の減少が続いている。
	□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・物価の上昇や当地での秋サケ不漁の影響で、消費者の購買意欲の低い状況が続いている。
	□	衣料品専門店（エリア担当）	単価の動き	・気温が下がり始めたことで、冬物の動きが活発になり、客単価が上昇している。ただし、これまでもシーズンインの際には同様の傾向がみられるため、景気はそれほど変わっていない。

□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・イベントを開催すると、前年を上回る集客ができるものの、なかなか販売につながらない。高額商材や受注できる車種がいまだに少ないことから、景気の改善には至っていない。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の受注台数が、相変わらず前年を下回っている。新車の購入を検討して来店する客も少なくなっている。
□	自動車備品販売店（店長）	単価の動き	・売上は、前年比148%、前々年比128%となっており、来客数は、前年比138%、前々年比115%となっている。売上や来客数の数字が良いことから、景気が良いとみることもできるものの、大半が冬タイヤの購入によるものであることから、判断に難しい面がある。冬タイヤの販売が落ち着く12月以降の販売動向次第の面がある。
□	その他専門店〔造花〕（店長）	お客様の様子	・年々クリスマス需要が少なくなっており、秋冬商材の需要期が徐々に正月に移行していることから、全体的に客の動きが鈍くなっている。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・観光客が来店することもなく、新規客が増えることもない。毎月の来客数はほとんど変わらないため、景気は変わっていない。
□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・当地は農業が主要産業の1つであり、今夏の異常気象の影響で、一部の作物が不作となっている。そのため、農家が農閑期である冬季の旅行を控える傾向がみられ、前年と比較して、景気がやや悪くなっている。
□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・物価高騰が続いていることから、ここ数か月、旅行に充てる費用を控える傾向がみられる。そのため、旅行の申込件数、新規受注額に大きな変化はみられない。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・夏や秋のイベントが一段落し、タクシーの需要が1年間で最も落ち込む時期となっている。利用者の増加につながるような要素も見当たらないため、前年と同じような売上で推移している。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・イベント関連での利用も、インバウンドによる利用も、来客数に大きな変化はみられない。
□	観光名所（従業員）	販売量の動き	・当施設の利用客は、引き続き盛況に推移している。最近では、インバウンドが飲食で1人1品注文することが当たり前になりつつあり、物販でも単価の高いキャラクターグッズの人気が高くなっているなど、インバウンドによる消費が売上に貢献している。
□	観光名所（職員）	単価の動き	・物価が高止まりしているため、景気は変わらない。
□	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・エネルギー価格や人件費の高騰に加え、金利高の影響もあって、住宅業界は引き続き低調に推移している。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・投資目的ではなく、別荘としてセカンドハウスを購入する客が少しずつ増えている。遠方の客に多く、年に数か月滞在することが多い。
□	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・コスト高騰により、新築戸建て住宅やマンションの販売価格が高止まりしている。中古住宅も需要が増えていることで、市場価格が上昇している。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・米国大統領が日本を訪れたことから、その言動によって、景気が左右されることになる。ただし、どのような影響が出てくるか、現時点では判断が付かない。
▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・10月に入り、景況感是一段と悪くなっている。観光客の入込はますますだが、地元企業はどこも潤っていない。
▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・客から、買いたくても買えない、新米の価格が高いといった声を聞くため、景気はやや悪くなっている。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・新政権が誕生したが、その影響が出てくるのはこれからとなる。
▲	スーパー（従業員）	単価の動き	・物価高騰の影響で、景気はやや悪くなっている。

▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新米の高値推移、光熱費の値上げなどの影響で、客の来店が減っている。また、相変わらず必要な商品しか購入しない客が多い。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・3か月前の7月は、8月よりも暑い日が多く、飲料やアイスの販売量が大きく増加した。一方、10月に入り、例年よりも気温が低く、天候の悪い日が続いていることから、飲料を始め、販売量が見込みを下回っている。そのため、景気はやや悪くなっている。
▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新商品の発売前ということもあって、現行の商品では購入には至らないことが多い。買い控えが発生しているため、注文は低調に推移している。
▲	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・当地域の販売店では、販売量や売上について、どうにか目標を達成できている。一方、他地域では、以前よりもやや落ち込んでいる販売店もみられる。新型車の販売戦略に左右されている面もあるが、全体的にみると、景気はやや悪くなっている。
▲	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・売上の前年比をみると、3か月前よりも低下している。特に生活用品などの売上が低調なことから、生活防衛のために、客が支出を抑制している様子がうかがえる。そのため、景気はやや悪くなっている。
▲	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・10月中旬からの気温低下とともに、ランチ客が減っていることから、売上は前年を下回るとみられる。例年、産地から直送してもらっている農産物がかなりの不作となっており、大きさがそろわなかったり、収穫量が半減するなどしている。また、秋冬野菜が不足していることから、市場の取引価格が上昇しているほか、輸入品の価格も高騰している。メニュー価格の再設定を考える必要があるなど、頭の痛い状況にある。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・大型客船の寄港などでインバウンドは増加しているものの、夏場と比較すると、来客数は減少している。当地ではこれから紅葉シーズンを迎えることになるが、紅葉の期間が短いため、余り期待はできない。
▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・夏季以降のインバウンドの回復が鈍いことに加え、道内客の減少も目立つため、景気はやや悪くなっている。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・観光の端境期である第3四半期を迎え、イベントや観光の要素が少なくなっていることから、国内客、外国人客のいずれも観光需要が減少している。ただし、9月の航空便の利用客数は、国内線も、国際線も前年を上回っているなど、堅調に推移している。特に国際線は前年比で2けたの伸びとなっている。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・自社ツアー、他社ツアーにかかわらず、募集型企画旅行へのニーズは堅調に推移しているものの、個人型旅行が低迷し始めている。例年、予約販売が減少する時期ではあるが、例年と比べても減少幅が大きくなっている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・10月のタクシー1台当たりの売上は、前年と比べて、若干のマイナスであった。ただし、当社では、ドライバーの採用に注力し、ドライバーが増えていることから、タクシーの稼働台数が約15%増加しており、会社の売上は、前年比で約15%の増加となっている。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・気温が急激に低下したことで、客の外出機会が大きく減っている。それに伴って、当社の業績も落ち込んでいる。
▲	通信会社（エリア担当）	それ以外	・通信キャリアの施策が影響して、景気はやや悪くなっている。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・食料品の値上げに加え、冬を控えて灯油価格や除雪費用の値上げ幅も大きくなっていることから、出費を控えようとする客の雰囲気が強くなっている。パーマをやめてカットだけにする客やロングヘアをショートヘアに変更する客が増加している。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・客単価が低下しているため、景気はやや悪くなっている。

	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・今年の観光シーズンがほぼ終了したこともあって、旅客、車両共に輸送量が減少している。
	×	スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は、計画の110%で推移している。一方、買上点数や客単価が大幅に下がっていることから、客が必要な物しか買っていないことがうかがえる。これから冬を迎え、灯油代への出費がかさむことから、客の節約志向が強まっている。
	×	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・円安を要因として、秋に入ってから、物価高がますます進んでいることから、客の節約志向が一段と強まっている。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・10月の販売量は前年比マイナス1%であった。3か月前の7月の販売量は前年比マイナス8%であったため、景気は良くなっている。
	○	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・外国人観光客を中心とした販路で、7月以降、客単価の低下がみられている。状況は脱しきっていないが、改善傾向がみられるため、景気はやや良くなっている。
	○	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・10月に入り、輸送依頼及び問合せの件数が増加している。
	○	司法書士	受注量や販売量の動き	・アパート物件において、企業を始めとした事業者による不動産取引の販売量が増加した。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	取引先の様子	・人手不足問題などはあるものの、国内の建設投資は堅調に推移している。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べると、販売量はやや増えているものの、前年と比べると、減少している。
	□	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気は変わらない。今後、新政権の物価高対策の効果が出てくることを期待している。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・人材不足のため、案件があっても、対応できず、成約できない案件が増えている。さらに、建設工事費の上昇に拍車がかかっていることで、案件を見送るケースが増えつつある。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・工事の追い込み期に入り、各現場では、年度内の完工に向けて、工事が順調に進んでいる。これまで長雨や台風、局地的豪雨といった天候面での悪影響を受けることがほとんどなかったことから、計画スケジュールを上回るペースで工事が進行している状況に変わりはない。
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・トレーラーの回転率の低下は、前月と比べると解消してきたものの、コンテナ専用台車の不足感はいまだに続いており、空車を回送して補っている。本州向けの荷物は、生乳が低調なほか、農産物も不作や生育不調の影響で減少傾向にある。本州からの紙パルプ関連、飲料、雑貨で減少分をカバーしている状況にある。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・企業からは、原価上昇分の価格転嫁は進んでいる一方で、人件費や一般経費の上昇分の転嫁は難しいという声を多く聞く。このため、景況感が変わっていない。
	□	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・年末に近づいているものの、受注量に余り変化がみられない。
	□	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・取引先の様子をみると、人手不足を補いながら、業績を伸ばしている。ただし、給与が上がっている様子はないことから、景気としては横ばいで推移している。
	▲	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・青果物の高温障害が深刻なことから、景気はやや悪くなっている。鮮度保持技術や栽培方法による対策など、将来的な視点での対策が急務である。
	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新築戸建て住宅の着工棟数について、前年を下回る状況が続いている。パネルヒーターの出荷台数もそれに比例して減少傾向で推移している。

	▲	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・新たな案件の話や人を探している話を聞かなくなった。
	▲	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・販売実績について、予測を上回る結果が出てきているものの、依然としてベース商材の動きが悪い。人材不足や就業時間の上限規制の影響もあって、ものづくりの現場の状況は余り変わっていない。
	×	司法書士	受注価格や販売価格の動き	・不動産取引の受注量は前年並みであるものの、物価上昇の影響を大きく受けている。紙や文房具、事務所機材の価格上昇が続いていることで支出が増え、利益が減っている。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は堅調に推移している。10月の求人数は、3か月前と比べて5割増加しており、企業の人材需要の高まりに変わりはみられない。ただし、企業が求めるスキルの水準は高く、採用に当たって妥協することもない。10月の人材の提案数は3か月前の2倍になっているが、面接に進んだ件数は3か月前と変わらない。一方、人材側では、転職への強い意思がみられなくなっている。世の中に多数の求人があることから、どこでも決まるはずという安易な考えが見え隠れしている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・时期的な要因を除くと、業種を問わず、景気は大きく変わらずに推移している。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・就職した若手が長続きしない傾向が強まっている。定着率の低下を受け、未経験者の育成よりも即戦力の確保を重視する企業が増え始めている。企業が、現場の負担軽減を優先せざるを得ない状況であり、結果として労働市場の硬直化につながる事が懸念される。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で2.6%の増加となり、3か月ぶりに前年を上回った。一方、月間有効求人数は前年比で7.6%の減少となり、求人数が継続的に増加している状況ではないため、景気は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における9月の有効求人倍率は0.80倍であり、前年を0.04ポイント下回り、2か月連続で前年を下回った。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ハローワークの求人数は減少傾向にあるものの、企業からは人手不足との声を聞く。ただし、ハローワークや民間求人誌などに求人を出してもなかなか応募がないとの声も聞かれる。企業においては、景気が悪いわけでもなく、受注も取れる状況であるにもかかわらず、人材不足で思うように受注できない状況が続いている。
	□	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・企業の採用動向から、特に景気に影響するような動きはみられない。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数が減少傾向にあるものの、採用活動を継続している企業もみられるため、景気が上向いているとはいえない状況にある。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・最低賃金の大幅な引上げ、食料品の値上げなどの影響で、10月に入ってから、状況が変わりつつある。人材採用コストの見直し、アルバイトやパートの正社員化で対応する企業が増えており、求人数が一段と減っている。
	×	—	—	—